



# みちくさ

2017.4 番外編

## 退職最後の日の過ごし方

校長を辞めるとき、最後の日はどういう過ごし方をするのか。このことについて、過去に歴代の先輩校長先生方がいろいろなことを話していた。その中で、「あっ、こんな過ごし方もいいな」と思ったことがある。是非、自分の時も、こういう時間の使い方が素敵だなと思ったし、そうありたいと考えていた。

それは、今まで勤めた職場を全部廻るということなのである。4月1日の午前0時にならないと、本当の意味で退職にならない。裏を返せば、もし3月31日の夜、大きな地震が来たり、災害が発生したりした場合には、現職の校長として職場に馳せ参じないといけないということである。だから3月31日の夜は、ぎりぎりまでお酒も飲まず、じっと時の過ぎるのを待つ。そして、めでたく開放された暁には、乾杯するでもいいし、昔の職場を廻ってみるのもいいのである。

自分の場合は、深夜スタートで、全部学校や職場を廻ろうと決めていた。今までお世話になった学校まで出向き、校舎に向かって御礼の意味を込めて深々と頭を下げてこようと考えていた。小松島がスタートであり、栢江、大和、片平と職場が変わった。そしてその後、教育センター、北六と異動し、その次が丸森の耕野である。この辺まで来ると、きっと朝になり、明るくなるだろうと予想していた。白石市内でうーめんでも食べて、そしてまた仙台まで戻り、市役所の北庁舎、愛子と廻って、最後にまた片平に戻ってくる。ここまで来ると、おそらく土曜日のお昼近くになるだろうから、一番町でお昼をとって、そのまま家に帰り、後は夕方まで寝てみようか。こんな綿密な計画を立てていた。

さて、最終日、最後の仕事が残っていて、まだ校長室の片付けも完璧ではない。みんなが帰らず待っていてくれるのは分かっていたが、勤務時間を過ぎてもバタバタしていた。なんか浅野教頭先生がそわそわしているぞ。「そうか、そろそろ帰れという合図だな」と思い、その時点で5時半ごろになっていて、仕方なく観念して帰ることにした。玄関まで降りてくると、なんと前任校のPTA会長さんが待っていて、サプライズ。「そうか、これがあったから前任校で一緒だった浅野教頭さんがそわそわしていたのか」と、やっと気がついた次第であった。

みんなに玄関で見送られ、やっと帰ることになった。日付が変わったら車で出かけるから、ガソリンの量もきちんと確かめ、家に帰宅した。家ではかみさんが、いつもより少しは料理に時間をかけて待っていてくれた。

ところが、ところがである。この辺から雲行きが怪しくなってきた。なんか体調が優れないのである。体温計を挟んでみると、なんと熱があるではないか。日中からやや厳しいかなと思っていたけれど、やはり発熱をしていた。食事をとった後、深夜を待つまでも無く、そのまま布団へ。なんと、計画は全ておじゃんになって、土日は寝ていたという落ちまでついた。退職後は健康第一ということなのであろう。